

環境の厳しさと食料生産手段が人間関係の自由度を左右する

～39 ヲ国比較調査により人間関係の流動性の原因と人の心理への影響を解明～

ポイント

- ・人間関係の自由度を低める原因として、環境の厳しさ（飢饉や戦争）と食料生産手段（稲作）を同定。
- ・自由度の高い社会の人々は、人間関係に積極的に関わることを確認。
- ・急速に流動化しつつある現代社会への対応を考える上で有用な成果。

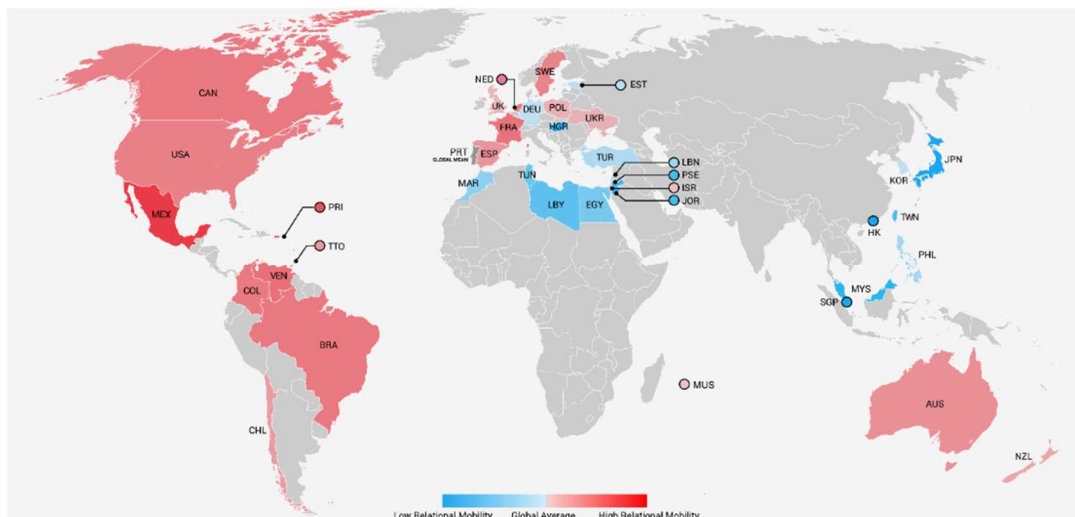
概要

北海道大学大学院文学研究科の結城雅樹教授らの研究グループは、世界 18 ヲ国の研究者 27 名と共同で、関係流動性（人間関係の選択の自由度）が高い社会と低い社会の違いをもたらす歴史的原因と、その原因が人々の心理や行動に与える影響を明らかにしました。世界 39 ヲ国・地域の一般市民 16,939 名を対象とした心理学調査と、各種統計との関連の分析により、以下のことがわかりました。

- 1) 関係流動性は、欧米圏、オセアニア圏、中南米圏で高く、アジア圏、中東圏で低い傾向にある。
- 2) 関係流動性が高い社会の人々は、低い社会の人々と比べて、より主体的に人助けをしたり、自分の秘密を共有するなど、より積極的に対人関係に関わる。また、他者に親密性を感じやすい、自尊心が高いなど、人間関係の獲得と維持に必要と考えられる心の働きが強い。
- 3) 地域の関係流動性は、その地域が過去に厳しい自然・社会環境の下にあった場合ほど、また稲作のような相互の助け合いが必須の食料生産を採用していた場合ほど低い傾向にある。

以上の成果は、私たち人間の心の多様性の原因の理解に寄与するとともに、インターネットの発展などにより人間関係の流動性が急速に進行しつつある現代社会の将来設計や今後の教育について考える参考となることが期待されます。

なお、本研究成果は、日本学術振興会科学研究費助成事業（15H03445）の助成を受けた成果です。米国東部時間 2018 年 6 月 29 日（金）公開の *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 誌に掲載されました。



調査対象国・地域の関係流動性（赤が強いほど関係流動性が高く、青が強いほど関係流動性が低い）

【背景】

対人行動に関するこれまでの国際比較研究で、「個人主義的」とされる欧米諸国に暮らす人々の方が、「集団主義的」とされる東アジア諸国の人々よりも人間関係に積極的に関わるという、従来の考えからは説明が難しい現象が見られてきました。これに対して結城教授らの研究グループは、個人主義的な社会では関係流動性^{*1}が高く、人間関係を比較的自由に選択したり交換したりすることが可能であるため、本当に有益な人間関係を獲得したり維持したりするためにはより積極的な投資が必要だからであるとの仮説を立て、様々な実証研究を行ってきました。しかし、これらの研究の多くはアメリカと日本など特定の二カ国の比較にとどまっており、この理論が世界の他の国々や地域にも適用可能かは不明でした。また関係流動性の高い社会と低い社会が生まれた原因についても不明でした。

【研究手法】

ソーシャルネットワークサイト Facebook の広告を用いて募集した世界 39 の国と地域（以下「国」と略）の住民 16,939 名から、インターネット上に設けた計 23 言語のアンケートに対する回答を得ました。アンケートでは、まず、関係流動性の指標として、回答者が住む地域社会の人々がどの程度新しい他者と出会うことができ、また人間関係をどの程度自由に選択したり取替えたりすることが可能だと思うかを尋ねました。また回答者の心理と行動を測る項目として、友人や恋人に対する親密な感情の強さや自分の秘密を打ち明ける行動、困っている人に対して自己犠牲的に援助する気持ちの強さなどを尋ねました。分析では、当該国の平均的な関係流動性が、その国が過去におかれていた環境や現在おかれている環境の性質とどのように関連しているか、またその国の回答者の平均的な心理と行動の傾向とどのように関連しているかなどを検討しました。

【主な研究成果】

- 1) 関係流動性（対人関係の選択の自由度）は、主に欧米圏、オセアニア圏、中南米圏において高く、主にアジア圏、中東圏において低いことがわかりました。
- 2) 関係流動性が高い国々の人は、低い国々の人と比べて、人助けや、友人や恋人に自分の秘密を打ち明けるなど、より積極的に対人関係に関わっていました。また、他者に対して親密さを感じやすく、自尊心が高いなど、他の人との人間関係を積極的に作り、また失わないために必要と考えられる心の働きが強いことがわかりました。
- 3) 各国の関係流動性は、当該地域が過去に過酷な自然・社会環境の下にあった場合ほど、また稲作のような相互の助け合いが求められる食料生産を採用していた場合ほど低い傾向にありました。

【今後への期待】

以上の成果は、私たち人間の心の多様性の理解に寄与するとともに、インターネットの発展などにより人間関係の流動性が急速に進行しつつある現代社会の将来設計や今後の教育について考える際に参考となることが期待されます。

論文情報

論文名	Relational mobility predicts social behaviors in 39 countries and is tied to historical farming and threat (39 カ国の関係流動性は社会行動を予測し、農業と脅威の歴史に結びついている)
著者名	Robert Thomson ¹ , 結城雅樹 ² , Thomas Talhelm ³ , Joanna Schug ⁴ , 鬼頭美江 ⁵ , Arin H.

Ayanian⁶, Julia C. Becker⁷, Maja Becker⁸, Chi-yue Chiu⁹, Hoon-Seok Choi¹⁰, Carolina Ferreria¹¹, Marta Fülöp^{12,13}, Pelin Gul¹⁴, Ana Maria Houghton-Illera¹⁵, Mikhel Joasoo¹⁶, Jonathan Jong^{17,18}, Christopher M. Kavanagh¹⁷, Dmytro Khutkyy¹⁹, Claudia Manzi²⁰, Urszula M. Marcinkowska²¹, Taciano L. Milfont²², Felix Neto²³, Timo von Oertzen²⁴, Ruthie Pliskin²⁵, Alvaro San Martin²⁶, Purnima Singh²⁷, Mariko Visserman²⁸ (1北星学園大学, 2北海道大学, 3シカゴ大学ブース・スクール・オブ・ビジネス, 4ウィリアム・アンド・メアリー大学, 5明治学院大学, 6ビーレフェルト大学, 7オスナブリュック大学, 8 トゥールーズ大学CLLE, 9香港中文大学, 10成均館大学校, 11カスティージャ＝ラ・マンチャ大学, 12ハンガリー科学アカデミー, 13エトヴェシュ・ロラード大学, 14ケント大学, 15コロンビア心理学大学, 16タルトゥ大学, 17オックスフォード大学, 18コヴェントリー大学, 19リアニメーション＝パッケージ＝オブ＝リフォームズ, 20サクロ・クオーレ・カトリック大学, 21ヤゲロニアン大学, 22ヴィクトリア大学ウェリントン, 23ポルト大学, 24連邦軍大学, 25ライデン大学, 26IESEビジネススクール, 27インド工科大学デリー校, 28アムステルダム自由大学)

雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences (米国科学アカデミー紀要)

DOI 10.1073/pnas.1713191115

公表日 米国東部時間 2018年6月29日(金)(オンライン公開)

お問い合わせ先

北海道大学大学院文学研究科 教授 結城雅樹(ゆうきまさき)

T E L 011-706-3056 F A X 011-706-3056 メール myuki@let.hokudai.ac.jp

U R L <https://lynx.let.hokudai.ac.jp/~myuki/>

配信元

北海道大学総務企画部広報課(〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

【用語解説】

*1 関係流動性 … それぞれの社会における, 対人関係の選択の自由度のこと。関係流動性の高い社会では, 見知らぬ人との出会いの機会が多く, また対人関係を自由に選んだり, 選び替えたりすることが比較的容易である。関係流動性の低い社会では, 同じ人たちとの付き合いや同じ集団への所属が長期にわたる傾向があり, 対人関係を変更することが比較的困難である。

【参考図】

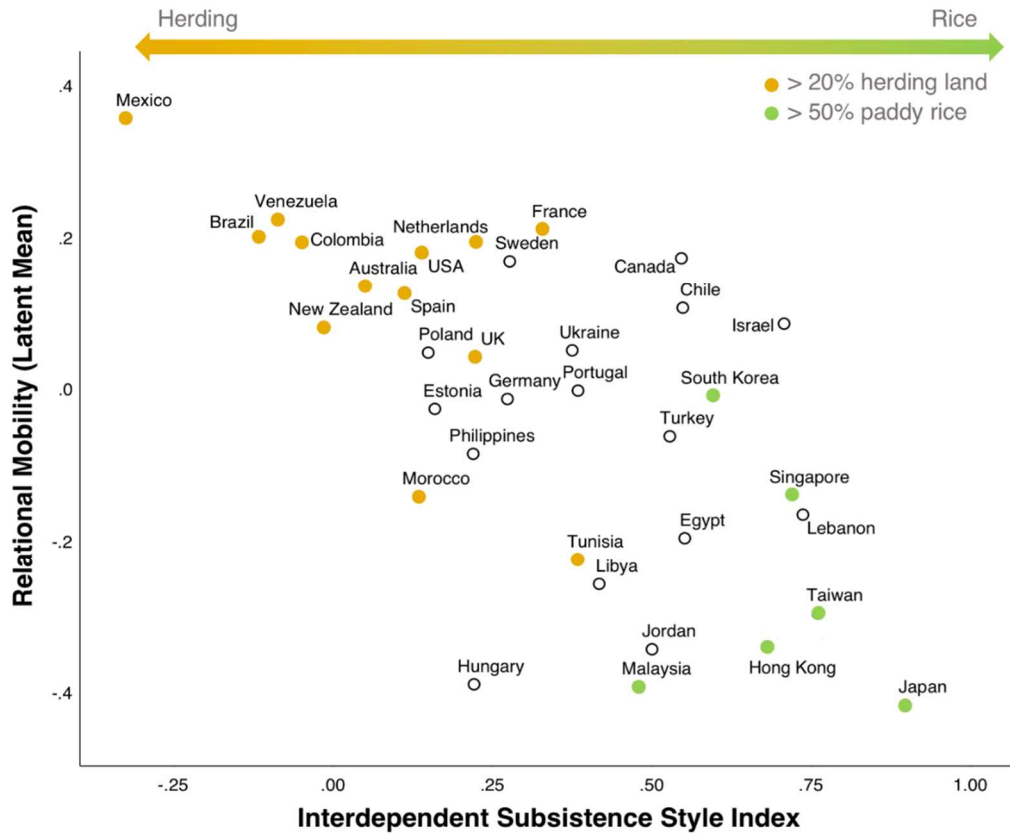


図1 食料生産手段（横軸）と関係流動性（縦軸）の関連。牧畜を始めとする相互独立的な食料生産が主流だった国（左方向）よりも、水稲農業を始めとする相互依存的な農業形態が主流だった国（右方向）の方が、関係流動性が低い。オレンジの丸は牧畜飼料用耕地が全農耕地の20%を超えていた国、グリーン丸は水稲農業用地が50%を超えていた国を表す。

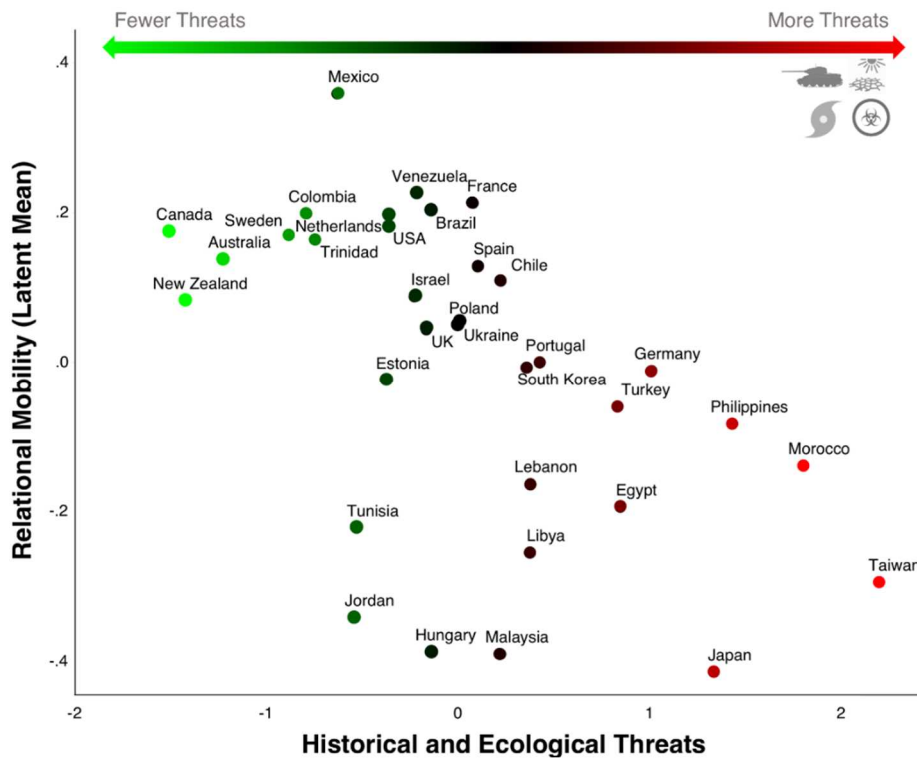


図2 自然環境・社会環境の過酷さ（横軸）と関係流動性（縦軸）の関連。より過酷な環境におかれていた国（右方向）ほど、関係流動性が低い。